

2018年度 第4回常任幹事会議事録

●日時
2018年12月8日(土)
15:00~17:00

●場所
阿佐ヶ谷美術専門学校 521教室

●出席者
秋元圭一 [会長]
日野 高 [副会長]
甲斐光省 [副会長]
小山 弘 [事務長]
土橋洋一 [常任]
三好耕之 [常任]
西田一成 [常任]
桜井裕美 [常任]
松岡和彦 [常任]
白石龍子 [常任]
小山優子 [常任]
勝山昌幸 [常任]
大野美菜子 [常任]
藤原成理 [常任]
山田直毅 [常任]
石井育美 [会 員]

●委任欠席者
浜村圭一 [常任] 西田氏
上村晴美 [常任]

(幹事17/27名 定足数成立)

●議事進行：
小山 弘

●議事録
書記：大塚奏芽 [学生]
校正・制作・文責：秋元圭一、
藤原成理、大村政幸、小山 弘

■議題1 企画会議について

2019年度の各委員会及びプロジェクトの予算案や企画案について話し合った。

◆ 同窓生在校生支援委員会（山田）【資料1参照】

基本的に例年通りの企画を行う予定。

● 質問・意見

日野：学校から要望はなあったか。

秋元：クラス別など変更点はあったか。

山田：両方共、特にありません。

※企画案については事務局と調整して決定する。

◆ 事務局、会計、名簿管理について（小山）【資料2参照】

①事務局

活動内容に変更はない。

再来年度に向けて、常任幹事以外の人に参加してもらえる企画を行いたいと考えている。

● 質問、意見

日野：予算をどれくらいで見込んでいるのかわからないので、概算を出したほうがよい。

小山：会議室レンタルやお茶代などで、1回につき3,000円くらいを考えている。

②名簿管理

大きな変更はない。ファイルメーカーが新OSで対応しなくなったため、新しいバージョンを31,035円で購入。今後は複数人で管理することを検討している。

③会計

予算は変更なし。

● 質問、意見

土橋：企画よりも予算の枠立てを先に行ったほうがよい。現在、30~40万の赤字になっている。累積の赤字の状況を算出していないとなっているが、それでよいのか。幹事会を何のためにやっているのかをもう一度見直した方がよい。収入に対して予算が超過しているのは前年と同じだがどうしていくべきか。

小山：いくら使うのかを決めてから資料を作っていないと、継続できなくなってしまう。来年度の予算についてはできることから着手する予定。

秋元：土橋さんの意見は執行委員に向けられているように聞こえる。執行委員だけではなく常任幹事に責任がある。事務局だけが考えなければならないというわけではないので、常任幹事の皆で予算や出費について考えていこうと思っている。例年、30万前後の赤字になっている。予算を減らしていく方向で、赤字を少なくしていけるようにし収支のバランスがとれるようにしていくのが望ましい。2月に来年度の予算案を立てる際に、支出や出費のバランスをみて調整したい。

日野：会費を徴収している同窓会の団体の中で、アサビ同窓会は会費が一番少ない。（桑沢3万円 芸大4万円 武蔵美は徴収してはいるが、詳細の記載は無い）

西田：30年程前の会員からしか会費を徴収していない。
会費を上げさせてもらうのもひとつの手段だが、節約して活動していくしかない。

日野：私の方で、見通しがどうなるのか整理したものを作りたいと思う。
会費を上げて欲しいと言っても卒業生に賛同が得られないと思う。

甲斐：会費を値上げする提案をするかどうかの話し合いは必要だが、基本的に値上げには消極的な状況だと思う。

秋元：3年進級時に親が払っている学費に同窓会費が含まれている。過去10年ほどの収支について集計データを出さなければならない。できる範囲で日野さんにまとめてもらい、予算に関しては常任幹事会が意識して見直していく必要がある。

◆ まんが計画について（小山）【資料3参照】

第5回の参加者の減少や来場者の増加の要因として下記があげられる。

- ・ 募集期間が短かった
- ・ 総会&パーティーと重なったため、昨年は開催せず1年間のブランクがあった
- ・ 制作期間が短かった
- ・ テーマがポジティブだった（ネガティブなテーマの方が参加者が多い傾向）

今後はアサビフェスタへの参加も考慮していきたい。
参加者が29名を割った場合、次回からの開催は行わない方向で考えている。
※スケジュールや予算は別紙参照（予算は例年通り）

● 質問・意見

秋元：開催日（10月14～19日）を、先に延ばすことはできないか。
今年、印刷物として唯一の宣伝媒体である同窓会ニュースの発送から開催日までの間がほとんど無かったため、宣伝として周知させることが難しかった。

小山：大きな効果があるかはわからないが、アサビフェスタ開催後の11月に開催する方向で、会場であるビジョンズと調整して決めてもよい。

甲斐：これまでは開催初日を祝祭日にしてもらっている。
フェスタに労力がかかるため、続けて開催となると難しい面がある。学校行事は年間スケジュールが決まっているので、11月8日前後まで伸ばして開催したほうが、まんが計画がスムーズに行えるのではないと思う。

日野：アサビフェスタの中でまんが計画を開催するよりも、フェスタの後に準備期間を設け、開催したほうがよいと思う。

土橋：参加費を倍にして、優秀な作品に賞金を出すのはどうだろうか。

日野：参加費を増額するかは別にして、同窓会からの持ち出し予算を0円とした運営方法について試算をしてみてもよい。

西田：冊子は参加者に何冊ずつ配布しているのか。

小山：基本的には1冊ずつ配布していて、なるべく在庫が残らないようにしている。

※まんが計画⑥の開催は全員一致で承認。

◆ 企画案について（松岡・他）【資料4参照】

企画① 「同窓会webサイト（asabi-net）リニューアル」

担当者：web委員・松岡

企画概要：記事の上げ方がやりにくいことや、毎回新記事をあげるのが大変などの理由から、同窓会webサイトのリニューアルを検討したい。

企画② 「同窓会青年会議（仮称）」

担当者：松岡・上村

企画概要：同窓会に参加している30～40代に声をかけてもらい、新しいアイデアを出す場を設けたい。

企画③ 「アサビアーカイブ」

担当者：松岡（未定）

内容：今後の活動などに生かしていけるように、アサビの歴史などの記録をデジタル化する。しかし同窓会だけでやると予算は上がると見込んでいる。

企画④ 「同窓会企画説明会」

担当者：松岡（未定）

開催概要：在校生と卒業生の結びつきを深める目的で、卒業生の就職した企業の方を招いて、アサビの在校生向けに説明会を開催する。

企業に参加してもらおう企画のため、予算は抑えられると考えている。

企画⑤ 「学校イベント参加企画」

担当者：松岡（未定）

開催概要：現在、アサビ同窓会で企画しているイベントが「まんが計画」のみなので、それ以外にも少しずつ幅を広げていってもよいのではないかと考えている。

● 質問・意見

大野：web委員会に関する予算のチェックはどうするのか。

松岡：asabinetリニューアルについてウェブ専門家に頼んだ方がよいと考えている。これまで予算を安く抑えようとしてきた結果、運営がうまく行かなくなっている。制作に関して専門の人に聞いたので、予算についての判断は常任幹事会のみなさんにしていきたい。

日野：asabinetのリニューアルはいつごろ完成するのか。

松岡：来年度中には完成予定。

勝山：担当者を決めて行なえば、スムーズに進められると思う。

小山：企画①の予算は現時点では内容がわからないため判断ができない。

松岡：記事の上げ方を簡単にする方法も検討している。

日野：投稿内容はテキストのみか。

勝山：写真なども可能。ウェブの専門家に入ってもらってやっていくほうがよい。

小山：この先のスケジュールが示されていないため判断しづらい。予算が大きいため内容を具体的にしてから慎重に検討していきたい。時間をかけても計画がわかるプロトタイプを作って提示してもらいたい。

松岡：私が企画しているが、全てをやりたいということではわけではない。

土橋：企画書のフォーマットを作成したほうがよい。最終的には予算化しなくてはならない。企画会議では承認まではしないで、たたき台としての提案と考えればよいのではないか。

秋元：新しい企画が出た時にどうしていくかはすぐに決められないが、企画会議では予算を明確にしていきたいと思っている。松岡さんの企画については検討したい。現在の同窓会では予算を計上しないで動いている部分がたくさんある。みなさんにはそのことについても認識して、配慮して欲しい。

松岡：提案した企画について、検討していただくということで了解した。提出した案の詳細が詰まっていないからといって、初めから否定してしまうのは、これから案を出そうとしている人にとって妨げとなってしまいうため、よろしくない。アイデアを出せるような環境を作っていく事が大切だと思う。

小山：提案については常任会の会議だけではなく、他にグループを組んで別の場所で話し合いを行っても構わないので、アイデアが言い合えるようにしていきたい。

■議題2 選挙について【資料5参照】

勝山：幹事に定年制を設けて「選挙の枠から外れてもらう」という提案がある。

土橋：幹事会にかけて決定したほうがよいのではないかと。

秋元：選挙については会則には触れられていない。選挙方法は検討しなければならないが、会則を変えなければできないようなやり方ではなく、会則を変えないで行える方法をとりたい。また、定年については会則に触れていないため、常任幹事会でみなさんの意見を聞いて結論が出せれば、そのように進めても構わないと考えている。幹事会での承認や、会則の変更は行わなくてなくてもよいと思っている。そこまで細かく詰めなければいけないとは考えていない。

西田：選びたい人を判断できないで選挙しても意味がない。会則の変更はしないで、選挙についてのみ変更した方がよい。秋元会長の意見は理解している。（選挙については）細かいところまで決めてあるが、今回の会議で配布した書類はわかりやすくするためのもので、次回の幹事会で承認されれば着手できると考えている。

秋元：選挙の方法を変えなければならないのは共通の認識だと考えている。70歳定年制についてはどう思われるか。

小山：被選挙人のリストから消えていくことには疑問を感じる。

藤原：この選挙方法の変更は権利のある人から権利を奪うことになる。まだやりたい人がいるかもしれないのに、常任幹事のみで判断し、定年制にするのは違和感がある。もし自分の立場だったら残念を感じる。総会や幹事会の場で承認を得るべきだと思う。

日野：選挙に関する公式の記述がないのであれば、なぜ変わったのかを記録として残しておかなければならない。議事録以外にも告知する場が必要だと思う。

西田：投票用紙に記載してもよいのではないか。

小山（ゆ）：次回の投票用紙に記載しておくので良いのではないか。

西田：若い人が選ばれる機会が増える方向で考えたい。選挙から外れた人は名誉常任幹事という名前で残れるならよいと思う。年配の人が外れることより、若い人が入れるような環境をつくらなければならない。

日野：私も西田さんと同意見で、新しく若い人が入ってこられるようになる方向がよいと思う。しかし、全体の理解が得られていないので、来年の3月の選挙に間に合わせるのは難しいと思う。

秋元：選挙管理委員は来年の3月に間に合えばと提案してくれたと思うが、今回の検討だけでは拙速に決める事になるので十分話し合っていく必要がある。70歳定年制をすぐ実施するというふうにはならない。

藤原：制度を急に变えるのは難しいので、3月には現在の制度のまま選挙をし、被選挙人の幹事で「若い人に譲りたいという方は辞退する」というのはどうか。

秋元：これまでも定年ではないが希望があれば「辞退者」として入れていた。

藤原：本人の意思で辞退したことを記載しておく必要があると思う。

秋元：本日この場で決められる内容ではない。辞退の件も3月の選挙までに常任幹事以外にアナウンスすることはできない。現在は辞退することがオープンになっていない。幹事を辞退して居なくなることは望ましくないので、代理の方を推薦して欲しいということがこれまでもあった。

勝山：選挙方法の変更については慎重に検討したほうがよいので、次回以降の選挙に合わせて検討したいと思う。とりあえずこの場で70歳定年制についてどう思うのか、みなさんの意見を求めたい。

※70歳定年制度反対 → 藤原・日野

70歳でもやりたい人がいるかもしれないのに、年齢で切るのは気が進まない。若い人を増やしていくことには賛成だが、実際に活動できる人が大切で、あらかじめ定年を決めておくのには疑問を感じる。

勝山：次回以降に継続審議していきたい。

■議題3 その他

白石：監査を受けるため、各委員会などは領収書の提出をお願いします。

以上で会議は閉会した。

次回の開催予定：2月16日(土) 15:00～17:00「常任幹事会」

【資料1】

2019年度 同窓生在校生支援委員会 企画案

<活動計画>

- 卒業制作展、同窓会賞の表賞
 - 卒業生幹事の選出(各科1名)
 - 卒業式後パーティへの助成・参加
-

●予算：¥210,000-

◎予算内訳(2017年度実績より)

- ・パーティ助成金：¥100,000-
 - ・賞金：¥90,000-
 - ・額縁：¥6,000-(アクリルフレーム)
 - ・その他：¥9000-(コピー、用紙、用具、のし袋、送料、振込手数料、等)
 - ・同窓会賞準備交通費：¥5,000-
-

2018.12.08

同窓生在校生支援委員会 山田

事務局

来年度について

事務局の来年度の活動内容に大きな変更はございません。
予算につきましても基本的には変わらず今年度と同額です。

ただ、再来年に向けていくつかの計画を予定しています。
そのためにいくつかの話し合いの時間を設けたいと考えています。
会議等は今年度の特例措置を利用して行うつもりであります。
会議の内容等は随時、常任幹事会にてお知らせ致します。
また、最終的にまとまりましたら来年の企画会議にてお知らせ致します。

名簿管理

来年度について

名簿管理につきましても大きな変更はございません。
予算につきましても基本的には変わらず今年度と同額です。

また、OSのバージョンアップに伴い従来のアプリケーションが動かなくなる不都合が発生し、そのため、急ではありましたが11月25日に「ファイルメーカー・プロ・アドバンス バージョン17」の半額セール（今月20日まで）があり、¥31,035-（税込）で購入しましたことをご報告します。

また、来年度以降は管理の方法を複数名でおこなつつもりであります。
細かなご報告をさせていただき進めさせていただきます。

会計

来年度について

会計も大きな変更はございません。
予算につきましても基本的には変わらず今年度と同額です。

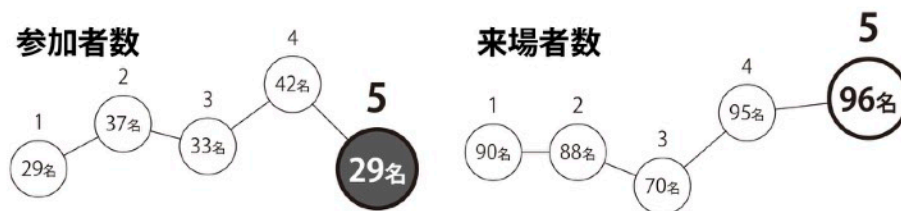
【まんが計画⑥】企画書

おさらい

今年10月8日～13日の期間で「まんが計画⑤」を開催させていただきました。

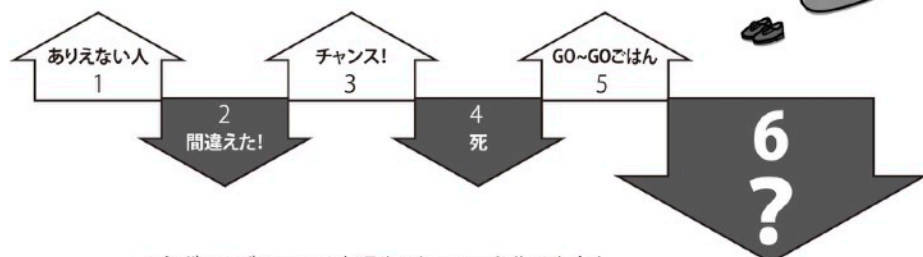
無事、終わる事が出来ましたことを感謝致します。

残念ながら参加者は第1回の頃に**大幅に減少**してしまいました。しかし、来場者数は**過去最高数**となりました。



なぜ減少したのか...その対策

- ・募集期間が(2ヵ月ほど)短い → **早めの募集**
- ・総会&パーティーで1年間のブランク → **今回はなし**
- ・制作期間非常に短かった → **ゆとりの制作期間**
- ・テーマがポジティブだった →



*ネガティブテーマは表現やストーリーを作りやすく
入り込みやすいのかもしれませんが。

今回はネガティブ
テーマが確定しましたらお知らせ致します。

アサビフェスタへの参加

来年度にアサビフェスタに参加させていただき、過去の分も含めた作品販売を考えています。取りやめる場合もありますので予算は別立てで進めます。

最後に...宣言

安定した企画ではありますが、新たな変化も必要と考えます。今回は参加者数をアップ目指します。参加者数が前回29名を割りましたら「まんが計画」は「**最後**」としたいと思います。

スケジュールについて

2019年

03月31日	テーマ決定	09月14日	DM納品
05月17日	チラシ入稿	09月17日	原稿メ切(制作期間22日~49日へ)
05月24日	チラシ納品(2ヵ月早く)	10月01日	入稿
05月31日	メンバー募集(1ヵ月半早く)	10月12日	冊子納品・発送
07月31日	メンバーメ切(1ヵ月早く)	10月14日~19日	開催
09月07日	DM入稿	10月26日~27日	アサビフェスタ

予算について

【支出】

展示部門

ビジョンズ会場費	10,000
連絡費	20,000
会議費	4,000
DMデザイン代	5,000
DM印刷費(東京カラー印刷)1000枚	5,000
A1歩ポスター印刷代(東京カラー印刷)3枚	3,000
作業人件費	20,000
オープニングパーティ経費	30,000
展示小道具	5,000
雑費	3,000
小計 ①	105,000

冊子部門

募集要項印刷代(東京カラー印刷)100枚	1,500
冊子印刷代(東京カラー印刷200部_P148_B6_モノ_70kg)	80,000
冊子販売アルバイト代(1日7000円×5名)	35,000
編集処理費	20,000
画像処理費	20,000
小計 ②	156,500

【収入(見込)】

会費(2500円×35名)	87,500
冊子売上げ(300円×80冊)	24,000
小計 ③	111,500

合計 (①+②)-③ **150,000**

【アサビフェスタ：予定】

A1歩ポスター印刷代3枚	3,000
展示パネル印刷代	13,000
冊子販売アルバイト代(2日7000円)	14,000

合計 **40,000**

予算(通常展示+フェスタ参加として) **190,000**

※決算は来年3月31日までに提出致します。

【資料4】

企画① 「同窓会webサイト（asabi-net）リニューアル」

効果	サイトへのアクセスのしやすさ。管理のしやすさ。情報更新の頻度。
----	---------------------------------

懸念事項	構築スケジュールの進行管理。外注予算で適当であるか。管理者の作業負担。
------	-------------------------------------

予算	品目	金額	支払先
	デザイン代	¥50,000	未定
	リニューアル作業(コーディング含む)	¥150,000	未定
	サーバーレンタル代	¥3,400	GMOペパポ株式会社
	ドメイン管理	¥3,299	GMOペパポ株式会社
	運営・企画費・リニューアルディレクション	¥30,000	松岡
	雑費	¥10,000	未定
	合計	¥246,699	

企画② 「同窓会青年会議（仮称）」

実施内容	同窓会の現状と問題点を説明、自由に意見を発言してもらう。または、アイデアソン形式で行う。参加者の反応が良ければ、定期的なものに発展させてたい。来年度は2回実施したい。懇親会は1人あたり2,000円を補助。
------	--

効果	若い世代への同窓会の認知。同窓会参画のきっかけ。フレッシュなアイデア。
----	-------------------------------------

懸念事項	人を集められるか。意見を同窓会に反映できるか。予算が適当か。
------	--------------------------------

予算	品目	数量	金額	総額	支払先
	打ち合わせ費用	2回	¥5,000	¥10,000	未定
	懇親会補助①	20人	¥2,000	¥40,000	未定
	懇親会補助②	20人	¥2,000	¥40,000	未定
	運営交通費	2回	¥4,000	¥8,000	未定
	雑費	1式	¥10,000	¥10,000	未定
	合計			¥108,000	

企画③ 「アサビアーカイブ」

実施内容	写真や資料をスキャン。どういう資料かを記載。年代別に保存する。まずは学校にある資料からはじめ、必要に応じて同窓生からの提供を募る。継続事業として特に期限をきめない。
------	--

効果	同窓会の資産の管理。歴史という価値あるコンテンツの使用。
----	------------------------------

懸念事項	学校との共有についてのコンセンサスの獲得。作業の管理。
------	-----------------------------

予算	品目	金額	支払先
	作業アルバイト	¥30,000	未定
	雑費	¥10,000	未定
	合計	¥40,000	

企画④ 「同窓会企画説明会」

実施内容	年に1回の就職イベントとして、就職該当学年に対して実施。合同で行うことで、学生には活躍する同窓生を知ることができ、なおかつ、同窓生の企業同士で知り合うことができる。
------	--

効果	アサビの就職率の向上。同窓生企業の人材確保。
----	------------------------

懸念事項	応募されない企業があった場合、次回からの参加が見込めるか
------	------------------------------

予算	品目	金額	支払先
	雑費	¥10,000	未定
	合計	¥10,000	

企画⑤ 「学校イベント参加企画」

実施内容	内容は今後検討。今まで実施されたような同窓生の講演会、展示などが考えられる。また現在、同窓会企画として毎年実施している「まんが計画」の展示をアサビフェスタで行うこともできるのでは。
------	--

効果	同窓生の学校イベントの認知。在校生への同窓会への認知。
----	-----------------------------

懸念事項	学校側との協議が必要。運営の人材。
------	-------------------

予算	品目	金額	備考
	講演者謝礼2名	¥60,000	講演会の場合
	運営・事前準備	¥30,000	未定
	雑費	¥10,000	未定
	合計	¥100,000	

【資料5】

「阿佐ヶ谷美術専門学校同窓会における常任幹事の選挙制度に関するご提案」

現在、常任幹事に関する選挙の制限がありません。会員の高齢化が進み20代から90代と幅が広がり、選挙人名簿の人数も増え、選挙管理委員会の所在確認作業も大変になっています。

そこで、会員の選挙権(選出する権利)と被選挙権(選出される権利)に制限を設け、投票の効率化を高めるためのご提案です。

まず、幹事が常任幹事を選出できる選挙権の行使を、卒業年から45年(仮)と制定します。また常任幹事に選ばれる被選挙権の行使を、卒業年から45年(仮)に制定します。

被選挙権が消滅した常任幹事でも、常任幹事会で活躍して頂きたい場合は、常任幹事会で名誉常任幹事(仮)として推薦し、幹事会で承認する方法をご提案します。

なお、任期途中で被選挙権の権利が消滅した常任幹事は、満期まで任務します。これらの常任幹事を名誉常任幹事(仮)と位置付け、権利は常任幹事と同等とします。ただし、会長・副会長・事務局長・委員会委員長の職にはつけません。

上記のご提案を基に会則を変更する個所は以下の通りです。

阿佐ヶ谷美術専門学校同窓会会則

第1章 総則

(名称) 第1条、(事務所) 第2条1・2、
(目的) 第3条、(事業) 第4条〈条文省略〉

第2章 会員

(種別) 第5条、(入会) 第6条、第7条、
(除名) 第8条、(抛出品の不返還) 第9条〈条文省略〉

第3章 名誉会長および役員

(種類及び定数) 第10条〈条文省略〉

第11条 本会に、この会則に定める規定により次の役員を置く。
常任幹事10人以上35人以内、該当年度に不在の場合は他年度から補員できる。

〈条文追加〉

2 名誉常任幹事(仮)は、定年終了常任幹事の中から若干名を常任幹事会が推薦し、幹事会で承認を得るものとする。

3 監査役2人。

(選任等) 第12条1・2・3・4・5〈条文省略〉

(任期)

第13条 会長の任期は2年とし再任を妨げない。
2 副会長、事務局長の任期は2年とし再任を妨げない。
3 幹事に欠員が生じた場合12条2項を基準とし同学年同クラスの正会員の責任において後任を選出する。

〈条文追加〉

4 幹事の選挙権は卒業年から45年(仮)とする。

5 常任幹事は、3月までに幹事の中から選出し、新常任幹事会を組閣後、すみやかに幹事会で承認を得る。

6 常任幹事の任期は4年とし、再任は妨げない。

7 2年毎に常任幹事の半数を改選する。

〈条文追加〉

8 常任幹事の被選挙権は卒業年から45年(仮)とする。

9 監査役の任期は1年とし、再任は妨げない。

(職務) 第14条1・2・3・4・5〈条文省略〉

(報酬等) 第15条1・2・3〈条文省略〉

第4章 総会

(種別)

第16条、(構成) 第17条、(権能) 第18条(1)(2)(3)〈条文省略〉

(4) 常任幹事・会長・副会長・事務局長および監査役の承認

〈条文変更〉

(4) 常任幹事・名誉常任幹事・会長・副会長・事務局長および監査役の承認

(5)〈条文省略〉

(開催) 第19条1・2、(招集) 第20条1・2・3、

(議長) 第21条1・2、(定足数) 第22条〈条文省略〉

(議決)

第23条 総会の議事は、この会則に定めるもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面表決等) 第24条1・2、(議事録) 第25条1・2〈条文省略〉

第5章 幹事会

(構成) 第26条1・2、(招集) 第27条、(権能) 第28条、

(定足数) 第29条、(議決、書面表決、議事録) 第30条〈条文省略〉

第7章 常任幹事会

(構成)

第31条 常任幹事会は、常任幹事をもって構成する。

(条文変更)

第31条 常任幹事会は、常任幹事及び名誉常任幹事をもって構成する。

(権能)

第32条 常任幹事会は次の事項について審議・議決し、総会に報告もしくは承認を求める。

- (1) 事業報告および決算の審議・決定
- (2) 事業計画および予算案の審議・決定
- (3) 会員の入会・除名等の審議・決定
- (4) 会長・副会長および事務局長の選任
- (5) 監査役の人選
- (6) 名誉会長の推薦

(条文追加)

- (7) 名誉常任幹事の推薦

- (8) 各委員会・関連事業体の活動報告と審議
- (9) 幹事会または事務局より求められた問題の審議
- (10) 会則改正に関わる問題の審議
- (11) 総会に付議すべき事項の審議
- (12) 総会の議決した事項の執行に関する審議
- (13) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する審議

(種類及び開催) 第33条 1・2・3、(招集) 第34条 1・2、

(議長) 第35条 (条文省略)

(定足数)

第36条 常任幹事会は、常任幹事の2分の1以上をもって成立する。ただし委任状を含む。

(条文変更)

第36条 常任幹事会は、常任幹事及び名誉常任幹事の2分の1以上をもって成立する。ただし委任状を含む。

(議決等)

第37条 常任幹事会には、第23条から第25条までの会則を準用する。この場合において、これらの会則中「総会」及び「正会員」とあるのは、それぞれ「常任幹事会」および「常任幹事」と読み替えるものとする。

(条文変更)

第37条 常任幹事会には、第23条から第25条までの会則を準用する。この場合において、これらの会則中「総会」及び「正会員」とあるのは、それぞれ「常任幹事会」および「常任幹事・名誉常任幹事」と読み替えるものとする。

第7章 委員会

(設置等)

第38条 1・2・3・4・5・6 (条文省略)

第8章 事務局

(設置等)

第39条 1・2・3、(職務) 第40条、第41条、

(備付け帳簿及び書類) 第42条 (条文省略)

第9章 財産の管理

(財産の構成)

第43条、(財産の管理) 第44条、

(事業計画及び予算) 第45条、(事業報告及び決議) 第46条、

(会計年度) 第47条 (条文省略)

第10章 会則の変更および解散

(会則の変更)

第48条 この会則は、幹事会において幹事総数の4分の3以上の議決を得なければ変更することができない。

(解散) 第49条 1・2 (条文省略)

第11章 補則

(附則) 第3条 (条文省略)

提案書制作 平成30年12月 西田一成